

2015 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 チャイルドドクター・ジャパン

I 事業の期間

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日

II 事業の成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア保健医療活動

i) 海外活動

ナイロビのチャイルドドクタークリニックを基盤に（ア）～（ウ）の医療支援 3 事業を実施した。

（ア）医療スポンサーシップ事業（チャイルド支援事業）

（イ）低額診療事業

（ウ）エイズ支援事業

ii) 国内活動

(2) その他の事業

◎各事業詳細

まず今年度の事業を概括する。2014 年度に陥った財務状況の悪化により、2015 年度はケニア事務所の運営を立て直すことに注力した。運営コストの削減だけでは十分でなく、支援者の皆様から頂いた資金をニーズの高い子どもたちや地域へ適切に配分することを念頭に、包括的に事業の見直しを行った。

その結果、支援児童数の減少、支援地域の縮小、スタッフの解雇、現地事務所職員による継続的なコスト削減努力により、財政的な危機を脱することができた。

危機に直面しながらも温かい目で見守り支えてくださった支援者の皆様に心より感謝の意を表したい。

(1) 特定非営利活動に係る事業

①東アフリカケニアでのボランティア保健医療活動

i) 海外活動

（ア）医療スポンサーシップ事業：

a. 保健医療リハビリテーションサービスの提供

チャイルドドクター制度^{*1}を利用し、子ども達への無料医療支援を行った。

事業の見直しにより、支援対象を医療ニーズの高い子どもや社会経済的に脆弱な子どもたちに焦点づけることにした。2016 年度 3 月時点で、低所得地域に暮らす子ども 324 名（前年同時期約 799 名）、孤児院・施設に暮らす子ども 113 名（同 456 名）、慢性疾患を患う子ども 59 名（同 55 名）、合計 496 名（同 1,310 名）が登録され医療支援を受けている。

当クリニックでの登録児の医療費はすべて無料とし、手術や専門的治療、加療を含む高度な医療サービスを必要とする場合は提携する国立・民間病院等に紹介する。そのすべての治療費を当会が負担する。

b. 会員維持（継続支援会員＝チャイルドドクター）

2008 年 12 月にチャイルドドクター制度を開始。2016 年 3 月末時点で、2,895 人が支援登録中（昨年同時期 2,953 人）。

また、支援口数は、1,000円換算で3,939口数の登録（昨年同時期3,914人）であった。退会者数については、事業地域縮小により3,064口分の支援チャイルドが変更されたことを受け退会者数に変動がみられた。退会者数152人（昨年同時期147人）、新規入会数98人。

c. サービスの質の向上

医療支援に加え、主に重度の身体障がいを抱えたチャイルドが当クリニックを利用する際の送迎サービスを実施した。子どもの成長、体重増加に伴い、親や養育者の身体的負担が増し、子どもを背負って公共交通機関を利用して来院することが難しい背景がある。また緊急時の要請を受け、搬送したケースもあった。

d. 現地での広報活動

ケニア在留邦人を対象に連携する孤児院の見学ツアーを開催した。治安上、在留邦人の中には行動範囲が制限される者も少なくない。今年度は30名の参加者があり、ケニアの社会事情およびチャイルドドクターの取り組みの周知につながる貴重な機会であった。

e. その他の特筆すべき活動

Facebook、ブログなどのSNSを活用し広報、啓発活動を行った。

今年度は、合計136件の記事（昨年度103件）、動画16件を配信した。フィールドスタッフによるケニアの庶民生活、風土などの記事、訪問者レポートが好評であった。またリハビリの様子やクリニックでの勉強会の様子を配信することで、現地活動をより親しみを持って感じられるようにした。

※1 チャイルドドクター制度

1口1ヶ月1,000円～の支援金で1人の子どもと交流しながら医療支援を実施。

会員種別は「継続支援会員」、スポンサーを「ドクター」、支援児を「チャイルド」呼ぶ。ホームページ上で支援申し込みができる。支援を受けた子どもは無料診察券を受領し、医療サービスを無料で受けられるようになる。支援金（会費）納付はクレジットカード決済、銀行振込を利用（利用率：カード決済58%、銀行振込42%）

(イ) 低額診療事業：

当会が運営するチャイルドドクタークリニックにおいて、主に低所得者対象に低額診療を提供した。事業の内容は下記の通り。

- ・施設：待合室、受付、問診・処置・経過観察室、診察室、薬局、検査室、母子保健/家族計画室、カウンセリング室、家族カウンセリング室、リハビリセンター
- ・診療日時：月～金曜日8：45～16：15
- ・診療人材：小児科医1名（日本人）、（以下ケニア人）準医師2名、看護師3名、検査技師1名、薬剤師2名、カウンセラー2名、受付・データ1名、作業療法士1名、理学療法士1名、その他非常勤スタッフ
- ・提携団体：社会医療法人医真会／ランガタ地区保健局／米国大統領エイズ救済緊急計画(PEPFAR)／ケニア中央医学研究所(KEMRI)／FACES(NGO:Family AIDS Care & Education Services) サンフランシスコ大学／米国開発庁(USAID)／MEDS(NGO: Mission for Essential Drugs & Supplies)／Special Education Professionals(SEP)／その他公立・私立病院(Kenyatta National Hospital、Marter Mission Hospital、Mbagathi Hospital)
- ・診療代：患者は登録料130円程度を支払い、薬品・検査は別途加算。リハビリ訓練65円程度、HIV陽性患者への診療および薬剤は無料
- ・診療内容：一般外来（内科、小児科、その他）、HIV患者包括的ケア、妊婦検診、家族計画、予防接種・小児健診、慢性疾患（高血圧・糖尿病など）外来、カウンセリング（心理、栄養など）、理学・作業療法

・今年度の実績：

- 所轄のランガタ地区保健所の要請を受け、予防接種の国家キャンペーンに車両、人員（ドライバー、看護師）を提供し協力した。
- 小児慢性疾患患者（脳性麻痺、先天性心疾患、血液遺伝病など）の増加に伴い、連携施設の増加、診療の充実を昨年度に継続して実施した。
- 主に医療スタッフを対象に Continuous Medical Education（CME）という医療勉強会を開催し、職員の保健医療に関する知識をアップデートした。（月1回・計7回）
- 疾病予防の観点から、クリニックの待合時間を利用して週1回ヘルストークを提供し、一般住民への健康教育をおこなった。
- Special Education Professionals (SEP)^{※2}と連携し、様々なトピックでワークショップを合計16回開催した。

※2 Special Education Professionals（SEP）

1990年ケニアで登録された非営利団体で、特別支援教育に携わる医療従事者、教育関係者の混生チームから成り、家族や養育者、専門家への研修の開催、家族や養育者からの個別相談、地域の小規模グループや組織への技術支援、一般への啓蒙活動等を行っている。チャイルドドクターは2014年から同団体と提携している。

・患者数推移：

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2005年度	482	435	386	499	419	405	301	358	214	245	276	383	4403
2006年度	313	669	591	541	508	473	491	472	375	529	552	833	6347
2007年度	591	807	918	1089	1153	1133	1131	1081	722	736	956	992	11309
2008年度	1208	1262	1159	1216	1129	1111	1139	1080	621	1036	1078	1074	13113
2009年度	1012	1100	1367	1254	1054	884	1088	1039	600	911	925	862	12096
2010年度	989	1005	1052	1185	1095	924	888	1132	659	927	1018	1005	11979
2011年度	998	1113	990	1083	1111	880	889	1015	390	642	794	927	10832
2012年度	994	1059	1021	1134	962	1030	1263	1221	758	942	1231	583	12198
2013年度	993	1453	869	1260	1153	908	1197	1179	582	996	1257	1467	13314
2014年度	1182	1377	1109	958	1237	1213	867	1171	675	935	1129	1073	12926
2015年度	1091	1284	1315	1255	1230	1171	1115	1237	856	931	1318	1221	14024

内訳）新患患者1,743名、（以下のべ人数）一般外来5,631名、HIV外来3,506名、低所得地域スポンサー支援児887人、慢性疾患スポンサー支援児1,425人、孤児院スポンサー支援児107名、妊婦健診151名、家族計画73名、予防接種244名、リハビリ訓練2,410名

（ウ）エイズ支援事業：HIV感染者/エイズ患者への無料医療支援：

当クリニックHIV包括的ケアセンターにおいて、引き続きHIVカウンセリングとテスト、日和見感染症予防と治療、抗HIV剤の投与、栄養カウンセリングと補助食品の配布、免疫検査、結核検査、精神的・社会的支援のためのカウンセリングなどを無料で提供した。2015年度のHIVテスト件数は617名、2016年3月末までに、計1,775名が登録され、現段階で、1,336名が治療継続中、そのうち、653名に抗ウイルス剤投与が継続されている。

ii) 国内事業

日本国内での安定的な資金調達国内事業の中心である。今年度は、大口寄附やインターネットを通じたファンドレイジングにより運営費が増加したことに加え、ケニア事務所での支出減少に向けた助言指導を行ったことにより、ケニア事務所の経営状況が改善され、単年度の赤字を解消することができた。また、円高トレンドが続き為替レートが向上したことも好転材料となった。

(ア) ファンドレイジング事業：

a. 未収金回収

未払金に対しては、HPに未収金プログラムを追加する予定であったが、期間内に抜本的な改革に取り組むことが出来なかった。

b. オーナー制度の導入

継続タイプのオーナー制度の設置に向け、READYFOR との間で導入について話し合いを開始した。

c. クラウドファンディングの利用

クラウドファンディング（小口寄附サイト：READYFOR）を利用した。

クラウドファンディングサイト上で、「診療所オーナー」を募集し、総額 840.5 万円分の寄附を 456 人の個人寄附者から集めた。寄附の引換対価として「オーナー名刺」を郵送する、ケニアの診療所の壁に名前を残す、子ども達からのサンクスレターを送る、等の特典を用意した。

d. その他

大口寄附（3 件）：100 万円単位の大口寄附者の存在により、単年度の事業資金が増加した。

為替レートの改善：為替レートが円高基調に入った結果、100 円が 75 シル（2015 年 3 月 31 日）から 88.5 シルへと 18%も改善し、収支改善への一助となった。

雇用削減・コスト削減：2014 年度末に縮小した事業に従事していた職員を、2015 年 4 月末に解雇した。これにより固定費が下がった。また、事業縮小による搬送車両の使用回数が減ったこと等があり、車両関係費についても改善が見られた。それ以外にも、継続的に現地事務所におけるコスト削減が功を奏し、支出の削減に繋がった。

(2) その他の事業

① 会報冊子販売：オリジナルカレンダーの制作販売

事業見直しの観点からオリジナルカレンダーの制作販売は実施しなかった。

② 東アフリカケニアの特産品・民芸品の販売

事業見直しの観点、開催日・事務局運営上の都合上、地域イベントでの販売会は行わず、ブース出展での広報活動のみ実施した。